

# 近未來社會

あいかふじらう  
愛甲次郎

過日近未來社會につき所見を求むるものあり。問はれて直ちにそれは未來社會そのものに關する所見とほぼ變ることなかるべしと思ひぬ。思ふに技術進歩は指數函数的變化にして、且つ、今やその終期にあれば變化はもはや爆發的と言ふべし。かつて社會における諸變化は人間的要素によつて決定せられたるも、最近は機械的要素、換言せばコンピューターによつて規定せらるるに至りぬ。人間の管理の手は既に離れぬ。

例へばハツブル宇宙望遠鏡を始めとする最先端の望遠鏡の日々収集する膨大なるデータはスーパーコンピューターによつて処理せられ、それによつて得らるる知見は人間的尺度を遙かに超ゆるものなり。それらの知見の細分化せられたる社會の各分野に及ばず影響は廣さといひ、速度といひ個々人の理解の及ぶところに非ず。

この技術進歩の加速度化は人類社會に計り知れざる變化を招くこと疑ひなし。ロボットのみに焦点を絞りてもそれは明らかなり。

技術革新或はそれに基づく生産性の向上は現在においても福音と看做さる。企業または個別産業の立場よりすれば然るべし。されどより廣き社會全體の立場よりすれば事はかく單純ならず。生産性の向上は必然的に多くの人々を生産關係より排除す。技術進歩は新たな職業を生むと論者は説けども失ふよりも更に多くの職を生むの保證はなし。生産性向上により我國の繊維産業や電子産業の工場擧つて海外の發展途上國に移り、ために地方の經濟著しく衰退せしこと我等の記憶に未だ新たなり。生産關係より排除せられたる者を所得再配分を以て支ふるは國家の責務なり。その負擔は年々増大す。近年先進諸國の財政並べて逼迫するのはこの故ならずや。勿論この問題は一企業あるいは一國の能く解決すべきことに非ず。

昨今ロボット或はAIのホワイトカラーの職を奪ふべきを惧るる論を聞くこと多し。

試みに醫師の職を見よ。患者の症狀を詳細に觀察し病名を特定することは果たしてコンピューターの爲し得ざることなりや。これに基づき治療の選擇肢を提示するは不可能なりや。少なくとも診断業務の前處理をロボットをしてなさしむることにより、多くの醫師を代替することは可能ならむ。

宇宙開發、原子力發電など多くの危険を伴ふ分野においてロボットによる作業の代替によつて問題解決の途開かるるケース多かるべし。死を怖れざる兵士より強きものはなし。ロボットの歩兵出現せば世界の軍事常識は一變すべし。ロボット兵團の規模により軍事力判定せらるる事態とならば、一國の強弱は壯丁の數に非ずして、財力の如何により決せらるべし。

兵糧、醫療の面においてもロボット兵團の維持費は著しく廉價なり。

世界の各研究センター競つて人間により近きロボットを目指せば、いづれ意思、感情を備へ、痛み苦しみを感じるロボットを我身邊に見ること時間の問題なり。外觀内面共に人間と分かち難きロボットは、古代の奴隸と何の異なる處やあらん。人類社會經濟的にロボットに大きく依存するに及ばば、その社會システムは古代奴隸制社會に極めて相似たるものとなること疑ひなし。

余世の宗教者に問はまほしきは、ロボットの人間化進み悩み苦しみも同じくするに至らば衆生と相等しくその救濟の對象と爲すかと。「否、ロボットは魂なければ」と答ふるものもあるべし。ここに想

ひ起こすは嘗てコンピューター大々に登場せし頃コンピューター・プログラムの類推の刺戟を受け脳神経科学の著しく發展せしことなり。今やAIとロボットの影響を受け「魂」の科学的理解大いに進むを期待すべし。

(令和元年十月二十五日受附)